

サークル活動完了報告書

サークル名	BGM 39	発表者	野田 直美
		リーダー	野田 直美
部署	手術室	サブリーダー	大坪 久恵
活動期間	開始: 平成24年7月23日 終了: 平成24年10月31日	メンバー	野田 直美 大坪 久恵
会合状況	会合回数 7回 1回あたり会合時間 30分		
所属長/推進メンバー	西平 貴代佳	所見欄	
レビュー担当者	(株)麻生 向野 早苗		

テーマ

手術室入室時の音楽が患者に与える影響

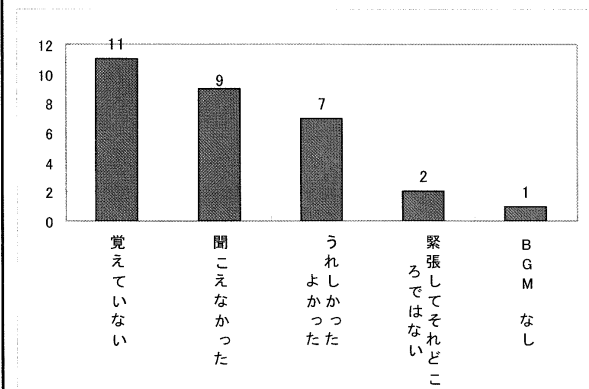
テーマ選定理由

現在、手術室入室時、看護師が選曲した音楽をかけて、患者の緊張緩和に努めているが、患者の緊張は少しでも和らげているのか疑問に思った。
そこで、今年度手術室では手術を受ける患者個人の好みに応じた音楽をかけることで少しでも緊張を和らげることを目的としてテーマを選定した。

現状把握

2012.7/23～8/16まで、BGMをかけた94件の患者に、術後訪問にて聞き取り調査を行った。その内、コメントありは30件で回収率は31%だった。(内容については図1参照)

<図1>



入室後に、看護師が選曲した CD をかけて『うれしかった。良かった。』の意見は7件だった。
『緊張でそれどころではない、覚えていない、聞こえなかった』は22件だった。
覚えていない、聞こえない中で、麻酔器やモニターの音量が大きく音楽が聞こえない9件、緊張が強く音楽が聞こえない2件、覚えていない11件だった。

目標設定

- ①CDを持参された患者の満足度:80%
- ②持参 CD の破損:0 紛失:0

対策実施

What	Who	When	Where	How
外来・病棟への文章作成	CS 委員	8/30まで	各外来・病棟	9/3~依頼
患者への案内作成	CS 委員	8/30まで	手術室	患者配布用案内の準備
CD 預かり袋の作成	CS 委員	8月上旬	手術室	各手術室用の「CD 預かり袋」を作成
運用手順	CS 委員	8月30日	手術室	作成
スタッフへの周知	CS 委員	9月2日	手術室	朝礼で周知
個別のBGM 対応	外来・病棟・手術室	9/3~	外来・病棟・手術室	運用開始
CD 持参患者の把握	CS 委員	9/3~10/31	各外来・手術室	データ収集

〈対策〉

1. CD ケース
 - ①各手術室の CD 専用袋・ケースの作成
 - ②破損防止のため、袋の中にクッション材を使用した
 - ③袋の表には、ROOM NO. 「CD 預かり袋」 破損防止と明記し、破損・紛失防止を行った。
2. 患者への案内用紙

手術室内への CD の持ち込みが可能である案内用紙を作成した。手術決定、手術オリエンテーションが行われる外来の各セクトへ、案内用紙の配布を依頼し、9/3 から実施した。同時に、CD 持参の取り組み・運用手順を手術室スタッフへ周知し、各病棟へも手術室 CS 活動の取り組みや CD 返却の依頼をした。
3. 患者情報用紙の追加・修正

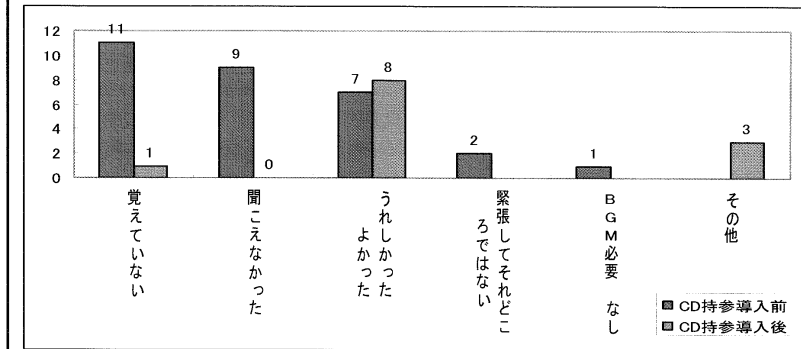
術前・術後訪問で使用する患者情報用紙に、『CD 持参の有無、持参枚数、評価』の記入欄を追加修正した。
4. 患者とのコミュニケーション

CD 導入前、音楽が聞こえなかった症例をもとに、音量の適正確認のため患者に声かけを行い音量調節を行った。

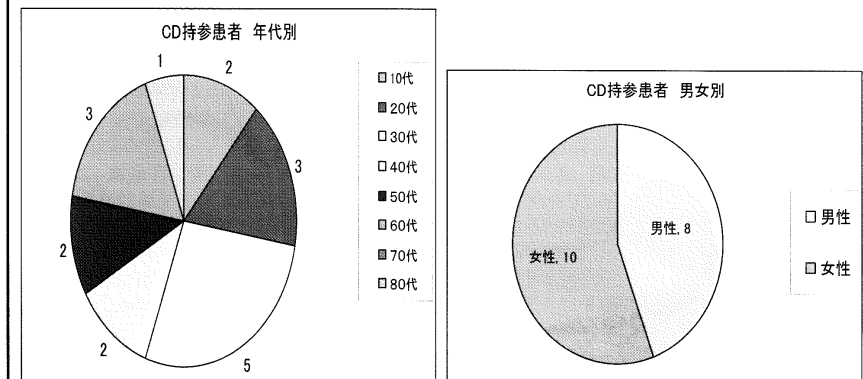
効果確認

術後訪問を行い、2012. 9/3~10/31まで、CD 持参された患者の聞き取り調査を実施した。期間中、CD 持参された患者は 18 名だった。(回収率:66%)術後訪問での評価は 図2を参照

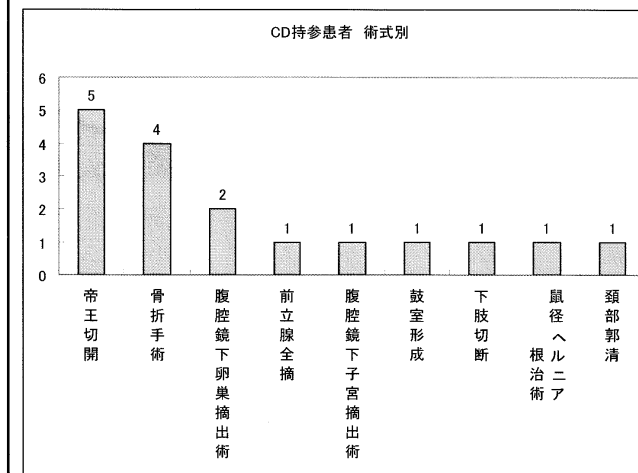
〈図 2〉



〈図3〉



〈図5〉



〈図4〉

目標①は、CD 持参後では、『うれしかった、良かった、リラックスできた』が 8 件で患者の44%がリラックスできていた。それに対して、『どうもない、覚えていない』は 3 件(16%)だった。術後訪問で評価を聞き忘れ、コメントなしが6件(33%)だった。

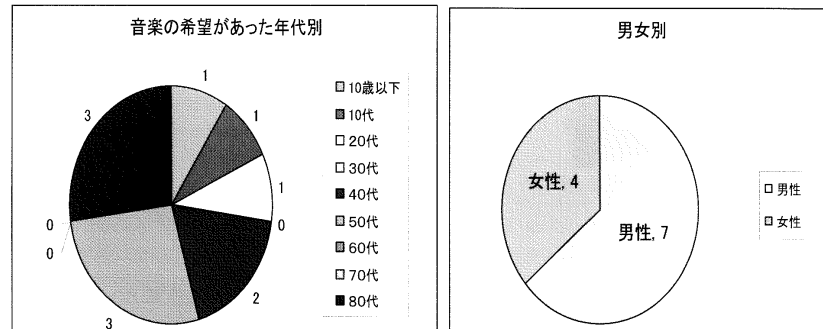
CD 持参前後を比較すると、「うれしかった、良かった、リラックスできた」の評価は23%から44%と増加している。CD 持参前の「覚えていない 聞こえなかった」に対し、CD の音量調節や、患者とのコミュニケーションを図ることで改善につながったと考える。また、年代別をみると30代が5件と最も多く、次いで20代と60代の3件があった。(図3参照)男女別では、やや女性の方が多く CD 持参され、帝王切開、骨折手術、腹腔鏡下卵巣摘出術の順で手術を受ける患者に多くみられた。(図4・5参照)

また、眼科の局所麻酔下での手術は短時間で入室し、手術時間が約10分と短いため、1人毎に音楽をかけることは困難である。高齢者が多い特徴を活かし手術室内に演歌 CD を4枚用意し、手術中に患者の聴力に合わせて音量を調節し提供した。患者からは「なじみの曲で良かった」という評価が 3 件あった。

また、他にも CD を持参されない患者にも、術前訪問の際好みの音楽やジャンルを聞き、希望の CD が手術室内にあれば、それを提供した。「良かった。」という評価が5件、「懐かしい・気が紛れた」はそれぞれ1件だった。(CD 持参のない患者の音楽希望は図3参照)

CD を持参されずに音楽を希望された方は、50 代、30代が3件と多く、次いで 40 代の順で音楽を希望され、男女別では、男性の方が多く希望された。(図6・7参照)

<図6>



目標②は、破損0、紛失0であった

<図7>

標準化

<CD 持参ありの手順>

What	Who	When	Where	How
①患者への案内文書	外来看護師	外来における手術オリエンテーション	外来	患者に案内を渡す
②CD 持参の有無	術前訪問看護師	術前訪問	各病室	患者に確認する
③CD	外回り看護師	手術入室時	手術室入口	預かり袋に入れる
④預かりカード	外回り看護師	手術室入室時	手術室入口	患者名を記載する
⑤CD	外回り看護師	手術室入室後	各手術ルーム	かける
⑥CD	外回り看護師	退室までに	各手術ルーム	取り出し袋に入れる
⑦CD	外回り看護師	退室後に	手術室内	患者と搬送

⑧CD	外回り看護師	手術室退室時	手術室入口	病棟看護師に手渡す
⑨CD	病棟看護師	帰室後	各病棟で	家族へ渡す
⑩預かり袋	外回り看護師	退室後	手術室入口で	返却する

<CD 持参ない場合の手順>

What	Who	When	Where	How
①患者の好みの音楽・ジャンル	術前訪問看護師	術前訪問	各病室	対話形式で聞き取る
②CD	外回り看護師	手術入室まで	各手術室	準備し、かける

まとめと今後の課題

手術入室から麻酔導入時は、モニター類の装着など様々な準備や処置が進行する中で、個人差はあるが患者は緊張や不安を抱えている。CD 持参患者の満足度80%を目標としていたが、実際は44%の満足度であった。術後訪問で音楽の評価を聞き忘れたことも、満足度が低かったことに影響していると考え。音楽の希望は20代に多いと予想していたが、実際には40～50代の患者が多く希望された。

音楽は、対象者に受容されてリラックス効果を得ることができるため、特定の曲や看護師が選択した曲がすべての人に効果を得るものではないと考える。各個人の好みの曲やなじみの曲があり、そのリラックス効果は人によって異なり、音楽を聴いて手術に対する不安が全てなくなるわけではない。CD 持参患者の内、16%の方は、緊張や不安が強く音楽によるリラックス効果は得ることが出来なかったが、医師・看護師の関わりにより、術後訪問にて「よくして頂き有り難うございました」とお礼の言葉を頂いた。また、年齢に関係なく患者の好きな音楽により、リラックス効果を得ることができたことがわかった。

活動期間中、実際に50歳代の患者が CD を持参され、「50歳代がなじみの曲は少ないだろうから」と本人持参の CD を寄贈して頂いた。また、選択的帝王切開を受ける30代の方は、持参 CD を誕生する我が子へのプレゼントにされた事例がある。

CD を持参し聞き慣れた曲を聴くことで、44%の患者はリラックス効果が期待できたと考える。また、CD の取り扱いも、スタッフが手順を守り、紛失0、破損0に繋がった。

患者が少しでも緊張や不安を軽減でき出来るだけ落ち着いた状態で手術に臨めるように、今後も患者の希望に応じて音楽を取り入れていきたい。

今回、この CS 活動を行うに当たり、ご協力くださいました外来、病棟、手術室スタッフ、医師の皆様方に感謝いたします。